

九州産業大学大学院

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



令和2年度 研究成果発表会

村上春樹早期作品論

博士前期課程

国際文化研究科 国際文化専攻 国際文化研究分野

李儀之

主査 和田勉
副査 河野賢司
吳紅華

研究の背景

村上春樹の代表作、『ノルウェイの森』が2009年5月まで発行部数千万部を突破し、村上春樹のベストセラーとなった。

それには、短編の「螢」が『ノルウェイの森』の第二、三章の下敷きとなっている。また、短編の「めくらやなぎと眠る女」にあるシーンも『ノルウェイの森』に取り込まれている。

研究の目的

村上春樹の早期短編作品の「螢」と、『螢・納屋を焼く・その他の短編』に収録された初稿の「めくらやなぎと眠る女」から、長編の『ノルウェイの森』までの関わりと、成立論に基づき、村上の実生活と小説の成り立ちに関して考察しようと思う。

研究の概要

第一章は『ノルウェイの森』の舞台背景から、現実との関わりを解明し、第二章は二つの短編から長編への取り組みを考察する。第三章は三作品におけるキーワード分析と、二項対立と両義性の特徴を分析してから、村上作品の中から底流する空虚感と挫折感を理解する。

感想・まとめ

村上春樹はストーリーテラーであり、その作品が実生活に基づいている。さらに掘り下げると、二作目の『1973年のピンボール』の登場人物には「直子」がいる。これについては、今後の課題にしようと考えている。

指導教員コメント

李儀之氏は卒業論文で村上春樹を取り上げ、修士論文でも村上の研究を
発展、深化させた。特に『ノルウェイの森』の作品そのものの解明や、そ
の成り立ちについて詳しく考察した。『ノルウェイの森』に取り込まれた
短編小説の「螢」や「めくらやなぎと眠る女」との関連について、表など
を用いて詳細に比較して解明した。

和田勉